

# (1) 芸術文化の創造

## 現状と課題

- 人々が潤いある心豊かな生活を実現し、創造的で活力あふれる地域社会を構築するためには、芸術文化は不可欠であり、県内全域が多様な芸術文化で彩られることが期待されています。
- 少子高齢化等の影響により、芸術文化を支える基盤の脆弱化が懸念されています。県民誰もが質の高い多彩な芸術文化に触れる機会を確保すると同時に、主体となって芸術文化活動に取り組むための環境整備の充実が求められています。
- 平成30年に開催した国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭では、障がいのある方もない方も、子どもから大人・シニアまで、多くの方の参加がありました。今回の文化祭を通じて育まれた人材や地域の特徴ある取り組みなどの成果を、将来につなげていくことが求められています。



第14回大分アジア彫刻展



第33回国民文化祭・おおいた2018、  
第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会

## これからの基本方向

- 県内各地において多彩で質の高い芸術文化活動が行われるよう、優れた芸術文化を鑑賞し、参加し、創造することができる環境整備の充実を図ります。
- オリンピック・パラリンピック文化プログラムを活用した観光誘客のほか、国内外へ本県の芸術文化の魅力を情報発信します。
- 将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育むために、若者や子どもたちの豊かな感性や創造力を育成する機会を充実します。また、芸術文化を通じた障がい者への理解と社会参加を促進します。

## 主な取り組み

### ① 多彩で優れた芸術文化に触れる機会の提供

- 別府アルゲリッチ音楽祭、大分アジア彫刻展、県立総合文化センターやしいきアルゲリッチハウスでのコンサートなど、質の高い芸術文化の鑑賞機会の充実
- オリンピック・パラリンピック文化プログラムの展開などによる、地域の特色ある芸術文化の再発見と国内外への情報発信
- インターネット等の様々な媒体を活用した芸術文化情報の発信



別府アルゲリッチ音楽祭 ©Rikimaru Hotta

### ② 県立美術館における鑑賞・創作機会の提供

- 大分が育んだ作家の作品の紹介
- 世界的な芸術文化に触れあう機会の提供
- 人文科学及び自然科学の要素を持つ展覧会の開催

### ③ 県民参加による芸術文化活動の推進と芸術文化を創造し支える人づくり

- 芸術文化振興会議と連携し、多様な分野の協働による県民芸術文化祭の展開や後継者の育成
- 県内各地での特徴ある芸術文化事業の展開及び地域の歴史や伝統芸能、食を巡るカルチャーツーリズム<sup>※1</sup>の実施
- アートプロジェクト<sup>※1</sup>をマネジメントする人材の育成や誘致
- 障がい者の芸術文化活動の発表の場や、鑑賞機会の提供

### ④ 次代の芸術文化の担い手づくり

- 児童生徒に対する芸術文化の鑑賞・体験機会の充実
- 子どもを対象とした鑑賞や表現の機会充実により、心豊かな子どもの育成や次代の担い手及び鑑賞者の育成
- 若者による自主的活動の促進や若手芸術家の海外派遣研修の支援



文化キャラバンによる鑑賞機会の提供

## 目標指標

指標名	年度	基準値	H30年度		R6年度
			目標値	実績値	目標値
県立美術館入場者数(万人) <sup>※1</sup>	26	-	50	57	50

※1) 平成30年度は国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の開催により大幅に実績が増加

## (2) 芸術文化ゾーンを核としたネットワークづくり

### 現状と課題

- 平成 30 年の国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭では、大型のオペラやミュージカル、国立美術館・博物館の名品展や市町村と連携した美術展示のほか、宇宙や深海に関する科学展示などを実施しました。多くの児童生徒も来場し、過去から現在、そして未来へつなぐ取り組みとなりました。今後も、芸術文化ゾーン<sup>※1</sup>を中心として、芸術文化関係団体をはじめ、教育、産業、福祉、医療など様々な分野の団体等と連携していく必要があります。
- 芸術文化は、人の心を豊かにし、創造性と感性を育むとともに、人々の感情に働きかけ、ゆとりや癒やし、感動を与えてくれます。このような芸術文化の持つ創造性を生かして、教育、産業、福祉、医療など、様々な行政課題に対応していくことが求められています。
- 別府の現代アート、国東・竹田の工芸や芸術、佐伯の壁画など、特色あるプロジェクトが広がっています。こうした動きをさらに加速させ、芸術文化の創造性を生かした地域づくりを展開していく必要があります。



大分県立美術館 (OPAM)



小学校等へのアウトリーチ・プログラム

### これからの基本方向

- 芸術文化ゾーンを中心として、広範な関係団体や県内各地で展開されている様々な芸術文化活動等との連携を進め、ネットワークの構築を図ります。
- 芸術文化の振興はもとより、芸術文化の持つ創造性を活用して、少子高齢化や人口減少社会、産業振興や人材育成、障がい者への理解や社会参画の促進など、社会的、経済的な課題に対応していきます。
- 「創造県おいた」を目指し、核となる人材を育成するとともに、アート拠点や団体、市町村等と連携して、芸術文化の創造性を生かした地域づくりを推進します。

### 主な取り組み

#### ① 芸術文化ゾーンを核とした取り組み

- 県と大分県芸術文化スポーツ振興財団が一体となり、公立文化施設、文化系博物館・美術館、アート系 NPO<sup>※1</sup> 等との連携を推進
- 県内各地のアートプロジェクト<sup>※1</sup> による地域づくりのネットワーク化を推進
- アーティストやクリエイター<sup>※1</sup> が交流・創造する場の創出
- 芸術文化のポータルサイトとして多様な事業を展開

見直し委員から一言  
子どもが本物に触れる機会をつくるのが重要です。



#### ② 芸術文化の創造性を生かした行政課題への対応

- 小中学校への教育普及活動の推進や子どもたちが芸術文化に触れる機会の創出
- デザイン性に優れた地場製品の開発支援
- 公共工事現場での障がい者アート<sup>※1</sup> の掲示など、障がい者芸術文化活動の発表機会の創出や商品化に向けた取り組み
- 企業向け研修や商品開発など、アーティストと企業とのコーディネート推進
- アーティストの社会福祉施設や医療機関等への派遣による芸術に触れる場づくりの推進



児童養護施設におけるワークショップ

#### ③ 芸術文化を生かした地域づくりの推進

- 地域に創造の場をつくるための芸術文化の支援、ネットワークの構築
- アートを活用した新たな地域コミュニティ創出など、創造的地域創出の取り組みへの支援
- 現代芸術を活用した地域の魅力増進と情報発信の強化
- 大分県に来たくなるような、特徴ある芸術文化の新たな展開やカルチャーツーリズム<sup>※1</sup> の実施など、芸術文化の振興と観光・地域振興の一体的な推進
- NPO、大学等と連携した芸術文化を支える人材の育成、活用
- アーティストやクリエイターの集積を推進



別府市で開催される個展形式の芸術祭[in BEPPU]

### 目標指標

指標名	年度	基準値	H30年度 (H29年度)		R6年度 目標値
			目標値	実績値	
子どもたちが芸術文化に触れる機会 (人) <sup>※1</sup>	26	11,896	12,400 (12,300)	17,895 (12,377)	13,750

※1) 平成 30 年度は国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の開催により大幅に実績が増加 (H26~29 の平均：約 12,000 人)

# (3) 文化財・伝統文化の保存・活用・継承

## 現状と課題

- 県内には、各地域で長い間受け継がれてきた文化財・伝統文化が数多く残されています。こうした文化財・伝統文化は、地域の歴史や文化を理解する上での重要な資料であるだけでなく、地域の人々の誇りや絆、文化的アイデンティティの礎となるものでもあります。
- 過疎化・少子高齢化を背景に、文化財の担い手不足による滅失や散逸の防止が喫緊の課題であり、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財行政の推進の強化が求められています。
- 本県の文化財・伝統文化を県民共有の財産として適切に保存・管理するとともに、地域の歴史的・文化的特色を生かしたまちづくりや観光資源として積極的に活用していくことなどを通して、次世代に着実に継承していくことが求められています。

<県内の国・県指定文化財件数>

平成31年3月31日現在

国指定の文化財		県指定の文化財		合計
国宝	4	—	—	4
重要文化財	83	有形文化財	496	579
重要無形文化財	1	無形文化財	2	3
重要有形民俗文化財	4	有形民俗文化財	13	17
重要無形民俗文化財	7	無形民俗文化財	47	54
特別史跡	1	—	—	1
史跡	41	史跡	107	148
特別名勝	—	—	—	0
名勝	6	名勝	7	13
特別天然記念物	2	—	—	2
天然記念物	22	天然記念物	78	100
重要伝統的建造物群保存地区	2	—	—	2
重要文化的景観	3	—	—	3
選定保存技術	—	選定保存技術	1	1
合計	176	合計	751	927

## これからの基本方向

- 県内の各地域の歴史や文化の証である文化財・伝統文化を守り育てるとともに、次世代に着実に継承していくため、国や県の指定・選定・登録制度を活用するなど、文化財・伝統文化の適切な保存・管理に努めます。
- 文化財・伝統文化が、地域の人々の誇りや絆、文化的アイデンティティの礎であることに留意して、これらを積極的に活用し、文化的特色を生かしたまちづくりや、観光振興・地域活性化を推進します。
- 積極的な情報発信を通して、県民が文化財・伝統文化について親しむ機会や理解を深める機会を充実させるとともに、継承者育成のための取り組みを推進します。

## 主な取り組み

### ① 文化財・伝統文化の保存

- 文化財の指定・選定・登録制度を活用した、適切な保存・管理の推進
- 市町村教育委員会と連携した有形文化財の状況把握の徹底と文化財の保存・活用に関する総合的な施策の大綱<sup>※</sup>の策定
- 文化的景観<sup>※</sup>や伝統的建造物群保存地区<sup>※</sup>など、地域全体を歴史・文化空間と捉えた面的な保存の推進

### ② 文化財・伝統文化の活用

- 有形文化財や記念物に指定された文化財などの修復現場の公開をはじめ、文化財を核にした観光戦略の展開
- 文化財・伝統文化をストーリー化した日本遺産<sup>※</sup>を活用した地域の活性化
- 教育遺産<sup>※</sup>の世界遺産<sup>※</sup>登録に向けた環境整備

見直し委員から一言  
文化財の数を増やすことも必要ですが、活用が重要です。



### ③ 文化財・伝統文化の継承

- 学校教育などを通じた子どもたちの鑑賞、発表機会の充実
- 県立歴史博物館・県立先哲史料館・県立埋蔵文化財センターが実施する展示の積極的PRや、学校への訪問講座の充実
- 文化財・伝統文化についての積極的な情報発信
- 文化財愛護団体<sup>※</sup>相互のネットワークの強化
- 伝統芸能団体の後継者育成のための支援
- 文化財・伝統文化を映像資料として記録保存するなど、デジタル化の推進



埋蔵文化財センターの歴史体験学習館「土器づくり」



文化財修復現場公開(草野家住宅)

## 目標指標

指標名	年度	基準値	H30年度		R6年度
			目標値	実績値	目標値
文化財の保存・活用に関する市町村の地域計画 <sup>※</sup> の策定数(件)	30	0	—	0	18
県立歴史博物館・県立先哲史料館・県立埋蔵文化財センターの利用者数(万人)	26	10.1	11.2	12.5	14.3